

ブタナ観察日誌

ある日のこと、「エゾタンポポを見つけた。家の近くにくさくさあるけれど、エゾタンポポかどうか見てほしい。」と博物館活動センターに持ち込まれた植物がありました。エゾタンポポは最近都心部では見られなくなっている種類です。さて、持ち込まれた植物を見てみると黄色い花はタンポポそっくり。しかし、葉は厚くチクチクする毛が生えています。この植物はブタナという植物で、「タンポポモドキ」という名前がつけられたこともあるくらいですから見まちがえても無理はありません。

このブタナはもともとヨーロッパの植物です。昭和初期に日本に入り、今や日本中で見られる植物になっています。活動センターがあるリンケージプラザの庭も6月にはブタナの独壇場となります。そこで、目の前の素材を使って簡単な調査をしてみました。目的というとおおげさですがはじめの疑問は「ブタナのタネがどのくらいの期間でできるのか？」です。

調査は2003年6月10日～7月4日(25日間)で、観察個体は庭の東側の区画で午後日陰になる場所の5個体(No.1-5)と1日中日当たりの良い場所で5個体(No.6-10)の計10個体をランダムに選びました。観察はブタナのつぼみが

開いてから綿毛が全部飛んでなくなるまでを追いました。予備調査の結果から、花が開いていく段階を11段階に分けて観察しました。

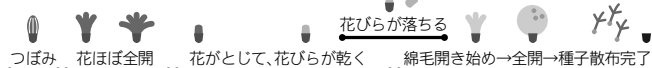
その結果が下の表です。もちろんそのときの気象(気温、風速など)にも左右されますが、今回の観察結果では花が開いているのは約2日間、花びらが落ちてから綿毛の頭が開き始めるまでが8～9日間、綿毛が開き始めてから綿毛が全て飛んでいくまでは3～4日間かかりました。日向と日陰で生育の差はなく、結局、つぼみからタネが散布され終わるまでに23日間かかりました。

その後、庭の草刈りがありましたが、地面にピッタリと張りつくように生えている葉は草刈りを逃れ、夏の終わりには再び花を咲かせ、ちゃんとタネをつけました。

できたタネがすべて芽を出す能力があるかどうかなどを調べなくては正確なことは言えませんが、外国産のブタナが日本のなかで分布を広げてきたのはこのしぶとい繁殖力が大きく関わっているのでしょう。

簡単な調査でも「なるほど！」と納得いく発見があります。みなさんもぜひ挑戦してみてください。(山崎)

(注:「タンポポモドキ」はブタナとは別種です。)



	6/10	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/19	6/21	6/27	6/28	7/1	7/2	7/4	7/5	
天気	薄曇	曇時々雨	曇一時雨	快晴	晴	曇	晴後曇	曇後雨	雨時々曇	曇り一時霧雨	曇後晴	曇	曇後一時雨		
気温	10.9	16.9	13.5	12.6	12	15.6	16.4	18.3	13.2	13.5	13.7	13.1	12.3		
No.1		FL2	FL?	D1	D1-D2	D1-D2	D2	S1	6/26虫に捕食された						
No.2		FL2	FL3	D1	D1	D1	D3	D3	S1	S4					
No.3		FL2	FL2	FL3	D1	D1	D3	S1	S1	S1	S1	S3-S4	茎茶変	刈り取り	
No.4		FL2	FL2	D1	D1-D2	D1-D2	S1	S1	S3	S4					茎枯死
No.5		FL2	FL2	D1	D1-D2	D1-D2	D3	S1	S1	S1	S3	S3-S4	茎茶変		
No.6		D1	D1	D2	D3	D3	S1	S1							茎茶変
No.7		FL3	FL?	D2	D2	D2	D3	S1	S3	S3-S4	S3-S4	S4			茎茶変
No.8		FL3	D1	D1-D2	D2	D2	S1	S1	S1	S5					茎茶変
No.9		FL3	D1	D1	D2	D2	D3	S1	S1	S1	S4				茎茶変
No.10		FL2	FL2?	D1	D1	D1	D2	D3	S3	S4					茎茶変




●表では書いていない日もあります。
●略記号の意味は
B1: つぼみ
FL1: 花の中央が未開花
FL2: 中央一部未開花
FL3: 花全開
D1: 花閉じてしまふ、花びら溜っている
D2: 花閉じてしまふ、花びら乾く
D3: 花びら落ちる
S1: 綿毛が見える
S2: 綿毛半開
S3: 綿毛全開
S4: 種子散布完了 を表す。
●天気、気温のデータは気象庁電子閲覧室「札幌」を引用。



【ブタナ *Hypochaeris radicata*】
花茎が枝分かれます。
(リンケージプラザにて2003年6月15日)

2004年度行事カレンダー

*詳しくは、広報さっぽろ、ミューズレターNo.20～No.22、ホームページなどをご覧ください。

月	資料収集・整理		大型動物化石 総合調査	学習会・講座					サポート事業	企画展
	委託	学芸員	学芸員 専門家	化石	植物	昆虫	「自然環境を読む」 野外実践講座	その他		
4月	札幌の昆虫	豊平川の水生昆虫	市内の水生植物の資料収集	予備調査					チーム募集	第11回 i ミュージアム企画展 「生きている化石」展 5月15日まで
5月					★植物観察会 5月22日				チーム選考	
6月				★市民見学・採取会			6月5日 ★川を読む(水生昆虫観察会)		野外調査(夏休み)	第12回 i ミュージアム企画展 「見る・観る・魅せる 封入標本」展 5月29日～7月31日
7月						7月31日予定 ★昆虫採集会	★空を読む ★海を読む(漂着物集め)			
8月				★化石採取会 8月7日予定					室内で調査	第13回 i ミュージアム企画展 「天然記念物藻岩山・ 円山の植物」展 (仮題) 8月3日～8月31日予定
9月										
10月				★市民見学・観察会 10月10日予定	★植物観察会 10月16日予定				調査のまとめ・展示準備	第14回 i ミュージアム企画展 サケについての展示 (タイトル未定、白石 東小学校主催) 9月4日～9月26日
11月							▲豊平川で化石採取会も予定しています。 あなたも世界を驚かす発見をするかも しませんよ!			
12月									展示・発表会	第15回 i ミュージアム企画展 サポート事業展示 (タイトル未定)
1月							▲観察会や講座でのみなさんの楽しそうな顔 を見るとスタッフもうれしくなります!!	1月下旬～2月上旬3回完結 ★樹脂封入標本の作り方		
2月										
3月					★植物観察会 3月上旬予定					

さっぽろ水草採物帖

博物館で行っている水草調査の中から、札幌市内周辺地域で見られる植物を毎月1種紹介します。

⑤ 武将も好んだオモダカ

オモダカは日本人にはなじみ深い水草の1つで、沢瀉(オモダカ)の家紋は80種類ほどあるそうです。オモダカは「勝ち草」と呼ばれ、豊臣秀吉や毛利元就といった戦国武将も沢瀉紋を使っていたといわれます。なぜ好まれたのかについては、葉の形が矢じりに似ていることや「沢瀉威の鎧」という言葉があることから、「攻め=矢じり」と「守り=鎧」の両方がうまくいくという意味をかけていたという説もあります。また、お正月料理で登場する中国原産のクワイはオモダカを改良したオモダカの変種です。

田んぼや溝のそばを歩いていると、緑一色のなかにオモダカの花の鮮やかな白が目飛び込んできます。そんな時、例えば生えている場所がドロくさくても、すがすがしい気分になります。花は段になってつき、同じ茎の上段がお花、下段がめ花です。それぞれ3枚の花弁の真ん中に黄色い雄しべ、黄緑色の雌しべの集合があります。オモダカと同じグループにアギナシというオモダカに見た目がそっくりな植物があります。果たして武将たちがオモダカとアギナシの違いについて議論を戦わせたかはわかりませんが。(山崎)



家紋
「立ち沢瀉」(左)
「抱き沢瀉」(右)
オモダカをデザインした家紋の基本形。
(出典: 本田總一郎「日本家紋大図鑑」)

【参考図書】

本田總一郎「日本家紋大図鑑」、丹羽基二「姓氏・地名・家紋総合事典」、千鹿野 茂「日本家紋総鑑」。



オモダカの葉

人の顔に見えることから「面高」(ちょっといばった感じで顔をツツと上に向けている様子)と呼ばれるようになったともいわれています。人の顔に見えますか?(2002年8月30日 西区西野休耕田)



オモダカの花(全体)
(2002年8月4日 江別市)



オモダカのお花
(2002年7月17日 東区モエレ沼)

(撮影: 山崎 真実)

豊平川に眠る人魚 ~カイギュウ化石~

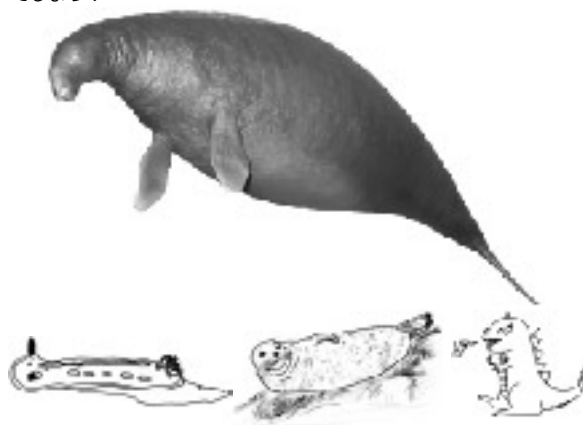
① 海牛→海獣→怪獣?

海牛(かいぎゅう)という動物はどうしても日本人の多くにはなじみがないようです。「札幌で海牛の化石が発見されました」と言うと、「海牛ですか…」と、少しがっかりされたり、「怪獣ですか!」とびっくりされたりします。それは海牛の生息する地域が今では南の暖かな地域に限られてしまったことが大きな要因かもしれません。

海牛は「うみうし」と書きますが、もちろん軟体動物の「ウミウシ」とは遠くかけ離れています。なぜなら海牛は背骨をもった“せきつい動物”であり、しかも毛の生えた獣=哺乳類だからです。海に棲む獣を「海獣」といいますが、海牛はどうしても怪しい獣・怪獣としてのイメージが強いようです。以前にも紹介しましたが、海牛は人魚に間違えられた動物です。日本でもジュゴンやマナティーを今では「海牛目(類)」と呼んでいます。前世紀のはじめころは「人魚目(類)」と呼んでいました。(古沢)

札幌産海牛の復元模型(制作: 古沢 仁)

頭部などの詳細な部位は年代的に最も近いタキカワカイギュウを参考に作製しました。でも、どうしてこれが人魚に間違えられてしまったのでしょうか?



〈ウミウシ〉

〈海獣〉
ゼニガタアザラシ

〈怪獣〉

(イラスト: 山崎 真実)



1月～3月の行事報告

みなさん、「活動的な冬」になりましたか？
これから夏も楽しみですね！

アクリル樹脂封入標本作製講座
1月24日, 31日, 2月7日(土)



▲それぞれの大切な宝物を永く保存できる標本にできました。

夜間講座「自然環境を読む」3回シリーズ
2月18日, 2月25日, 3月3日(水)



▲土壌の粒子の大きさの違いを体験・観察。

冬の観察会「雪道さんぽ」円山にて
3月20日(土・祝)



▲「自分の木」を決めて皮の模様を写し取りました。



▲自然の落とし物を使って、雪の上に絵をかきました。

講座・体験学習会・企画展のお知らせ

野外実践講座〈1〉川を読む 水生昆虫観察会

- 日時** 6月5日(土) 午前9時～午後3時 **会場** 豊平川上流 (貸切バスで行きます)
- 講師** 斉藤和範さん (旭川看護学校非常勤講師) **対象** 小学4年～大人 (小学生は保護者同伴)
- 定員** 30名 **費用** 無料 **集合・解散場所** リンケージプラザ (中央区北1西9)
- 川に入って、川底に生活する昆虫(トビケラ類、カワゲラ類など)を採集し、観察します。採集した昆虫は川へ戻します。

【申し込み方法】

参加する行事名・住所・参加する方全員の氏名・年齢・電話番号・FAX番号を明記し、5月27日(木)(必着)までに博物館活動センターへハガキまたはファクス、Eメール museum@city.sapporo.jp にて申込。
ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/museum/> 行事案内のページからも申し込みできます。いずれも多数時抽選。

第12回 iミュージアム企画展

「見る・観る・魅せる封入標本」

開催期間：平成16年5月29日(土)～7月24日(土)
主催：札幌市博物館活動センター
会場：iミュージアムギャラリー (博物館活動センター5階)

カルチャーナイト7月23日(金) 夜9時まで開館!!

開館時間延長はカルチャーナイト(北海道庁主催)参加にともない行われるものです。

「草木のたたき染め」を
予定しています。

葉っぱや花の色と形をそのまま布に染めつけます。自然の“ハンコ”を楽しみましょう！
【申込不要、無料、受付は午後8時30分まで。作品はお持ち帰りいただけます。】



札幌市博物館活動センターご利用案内

- 【開館時間】 10:00～17:00 【入館料】 無料
- 【休館日】 日・月曜日、祝日 (土曜日と祝日が重なる場合は開館)
- STVホールスピカの西隣、旧市立病院の建物がリンケージプラザです。
- 駐車場はありません。近くの有料駐車場におとめください。
- 〈地下鉄〉 東西線西11丁目駅4番出口から徒歩5分
- 〈市電〉 西8丁目または中央区役所前電停下車徒歩8分
- 〈バス〉 北1条西7丁目バス停降車徒歩3分

編集後記

来館者数 **24,195**人 (2004年3月末現在)

4月27日にお隣の石狩市に石狩市砂丘の風資料館がオープンしたそうです！早速偵察に行こうと思っています。
みなさんも海岸散歩+博物館+温泉なんて休日はどうでしょうか？(ま)

